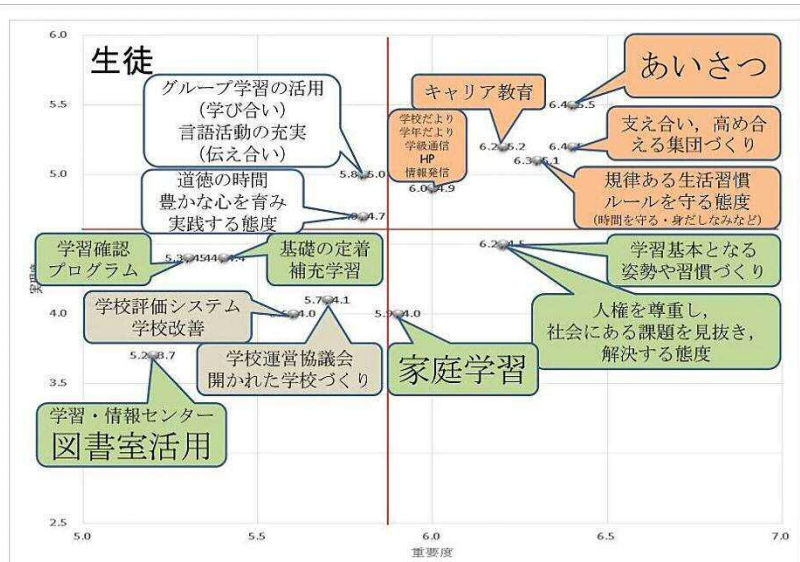


学校評価 1回目 報告

京都市立高野中学校 校長 上野 正智

平成26年11月

学校評価アンケート（平成26年7月実施）の分布図



7月に行いました学校評価アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。生徒238名、保護者211名、教職員28名のアンケートの集計結果を掲載しています。

重要度	実現度	点数
重要である	よく出来ている	7
やや重要である	大体出来ている	5
あまり重要ではない	あまり出来ていない	3
重要でない	出来ていない	1
わからない	わからない	0

3つの分布図は、上の表のように点数化し平均値を出したもので、「重要度」を横軸、「実現度」を縦軸にしたものです。

赤い線は、全部の項目の平均を表しています。

右上にある項目ほど重要であり、実現もできていると考えられます。

高野中学校として重点的に取り組んでいる15項目について

平 均	重要度	実現度
生 徒	5. 9	4. 6
保護者	6. 2	3. 8
教職員	6. 3	3. 4

◎共通して、重要で出来ている

- ・支え合い、高め合える集団づくり
- ・規律ある生活習慣とルールを守る態度

○共通して、出来ている

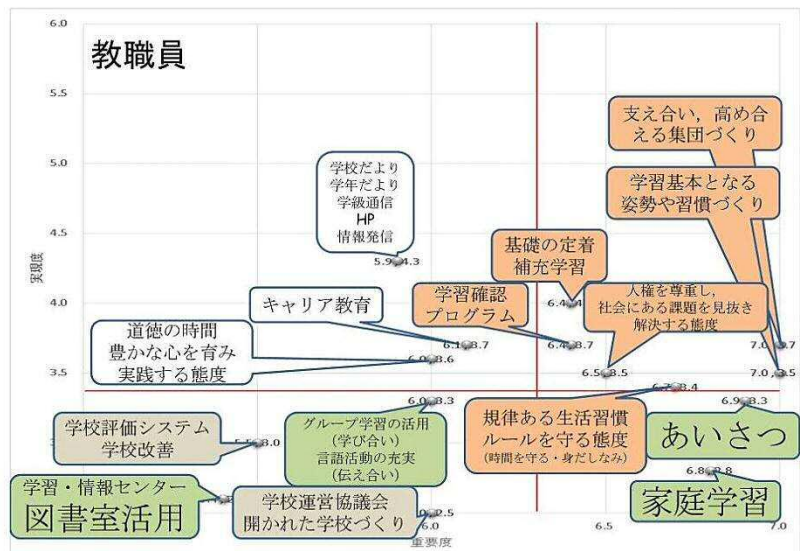
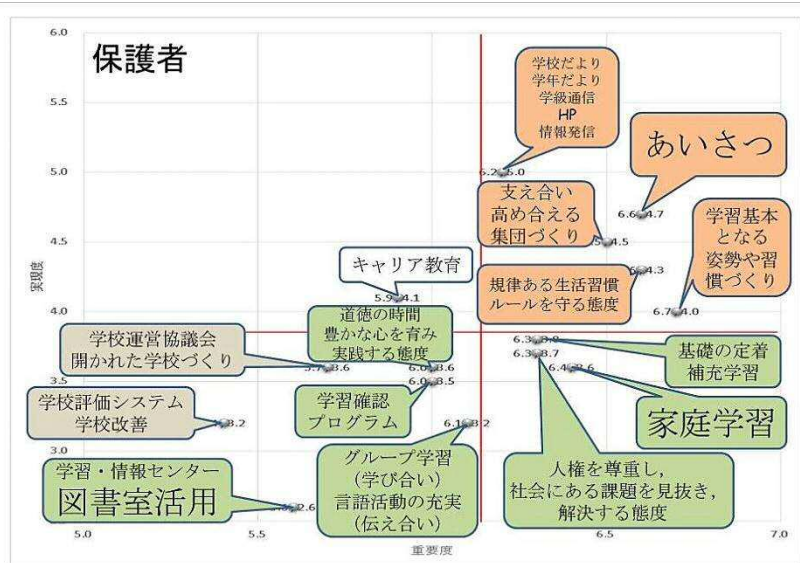
- ・学校だより、学年だより、学級通信、HPでの情報発信
- ・キャリア教育

▲共通して、重要だが出来ていない《課題》

- ・家庭学習

△共通して、出来ていない

- ・学習・情報センターとしての図書室活用
- ・学校運営協議会を活用し、学校と地域が一体となった学校づくり
- ・学校評価システムを活用し、学校改善に取り組む



平成26年度 重点評価項目		京都市立高野中学校			
・誇りを持てる学校づくり ・互いを大切にする仲間づくり		・確かな学力 ・開かれた学校づくり			
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート結果	各種指標結果
1	学校づくり	規律ある生活習慣とルールを守る態度の育成	担任二人制などきめ細やかな指導体制 生徒会による「服装見直し」キャンペーン	生徒・保護者の重要度・実現度とも高いが、教職員では実現度は低い	昨年度より遅刻人数減少 服装見直しキャンペーンで意識向上
		あいさつの徹底	生徒会による「やまびこあいさつ」キャンペーン 校門や授業でのあいさつ	生徒・保護者の重要度・実現度とも高いが、教職員では実現度は低い	毎朝の校門、あいさつ増加 校内でのあいさつ増加
2	確かな学力	学習基本となる姿勢や習慣づくり	共通した授業規律の設定 校内バトや個別支援	生徒・保護者・教職員とも重要度高く、実現度は平均程度である	各授業での生徒の取り組み姿勢改善(授業評価アンケート)
		家庭学習の充実	教科による課題設定の工夫 点検活動と支援	重要度は教職員、保護者、生徒の順に低くなるが、実現度は低い	全国学習状況調査で家庭学習してる割合も多いが、してない割合も多い
		基礎の定着を図る補充学習	国数英のベーシック学習と学習会 休業中の学習会や土曜自習教室	実現度は教職員は高いが、保護者は平均程度で、生徒は重要度も低い	ベーシック学習と学習会の一定成果はあるもの、事前にしっかり取り組み、きちんと合格することで成果を実感させる仕掛けが必要だと思われる。また近年の傾向として、グループ学習やキャリア教育への要望、意識は高く、学校が果たすべき役割を示唆するものとなっている。また図書館が学習・情報センターとしての活用についてはまだまだ課題が感じられる。
		学習確認プログラムの活用	予習・復習シートの計画的な活用	教職員は重要度も実現度も高いが、保護者、生徒はどちらも高くない	教科担当や担任が指導や点検を行っているが生徒の自覚低い
		グループ学習(学び合い)の活用と言語活動の充実	校内で共通しグループ学習の活用と工夫改善 校内授業研究	生徒の実現度が高いが、保護者、教職員の実現度は低い	1年生コの字型で授業、全学年共通でグループ学習を実践
		キャリア教育の充実	ファイナンスパーク学習やチャレンジ体験学習とその事前事後の学習	生徒の重要度と実現度が高い	1年ファイナンスパーク学習実施 2年チャレンジ体験5日
		学習・情報センターとしての図書室活用	本の整理と配架の工夫 朝読書の継続実施	三者とも重要度、実現度が低い	ビフォー・アフター完了 水曜放課後開館8月開始 図書室で選書会
3	仲間づくり	支え合い、高め合える集団づくり	学級活動、生徒会活動の活性化 グループ学習の活用	三者とも重要度、実現度が高い	学級活動、生徒会活動が安定して活発になっている
		人権を尊重する実践的態度の育成	いじめなど身近な課題、社会にある課題について解決する力の育成	三者とも重要度は高いが、実現度は高くない	人権学習の計画的、継続的に実施している
		道徳の充実と実践的態度の育成	道徳の時間の確保と資料や内容に関する継続的な分析 持ち回り道徳	三者とも重要度、実現度とも平均程度である	道徳の時間を計画的、継続的に実施している 学級通信での発信
4	開かれた学校づくり	学校、学年、学級だよりやHPでの情報発信	学級、学年、学校それぞれの積極的な情報発信	三者とも実現度は高く、よく出来ている	アンケートの保護者記述欄で学級通信に対する好意的記述多い
		学校運営協議会の活用	PTA、地域生徒指導連絡協議会、小学校との情報共有	生徒、保護者は重要度、実現度とも低く、教職員は実現度が最低である	図書室ビフォー・アフターに協力 学校との情報共有
		学校評価システムの活用	学校評価支援システムの利用 学校評価部会での分析	保護者、教職員にとって重要度、実現度低い	アンケートの実施と分析をし、改善策の検討している

自己評価	
評価日	9月9日、11日、16日
評価者・組織	企画・運営委員会 校内研修会
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策
規範意識は学校全体としては高くなっていると思われる。ただそれだけにルールを守れていない生徒が目立っているのも事実。教師からの継続した指導はもちろん、生徒間で注意しあえるような環境を設定することも必要である。	生徒会による「服装見直し」や「やまびこあいさつ」キャンペーンなど、生徒主体の活動が、生徒の意識を変えるきっかけになり、規範意識を高める雰囲気作りにもつながる。そのため、生徒が色々な場面で発信していける取り組みを増やす必要がある。
学習の基本となる規範作りや約束事の徹底については成果が上がついていると思われる。しかしながら基礎の定着を図る補充学習の項目では、生徒自身が成果を実感できていないという結果が出ている。ベーシックと学習会の効果はあるものの、事前にしっかり取り組み、きちんと合格することで成果を実感させる仕掛けが必要だと思われる。また近年の傾向として、グループ学習やキャリア教育への要望、意識は高く、学校が果たすべき役割を示唆するものとなっている。また図書館が学習・情報センターとしての活用についてはまだまだ課題が感じられる。	学習規範についてのこれまでの取り組みを継続し、きちんと授業規律が守られた状態を維持していく。またベーシックについては事前の取り組みをより充実させ、達成感を実感できるようシフトしていくことが重要である。そのために、保護者、生徒の家庭学習への意識向上や、学習確認プログラムへの事前の取り組みを常に意識させるなど、やるべきことは多い。また、キャリア教育についての生徒の意識・要望の高さを考え、教員も研修を積み、より高次のキャリア教育を提供できるようにしなければならぬ。更に図書室活用については、授業を含めて活用の機会を増やす。
班活動や学級活動など普段からの継続した取り組みによって互いを大切にする意識が高まっている。道徳については、継続的に取り組んできた結果、一定の理解、成果の実感があらわれている。	色々な場面で、生徒同士で話し合える場(グループ学習)を多く設定していくことが重要である。現状で満足することなく、道徳資料の刷新、自作教材の持ち回りなど、教員の資質の向上にも取り組んでいきたい。
各担任が学級や授業、行事を通じての生徒の様子を発信できている。学年、学校だより、HPについても適宜情報発信できている。学校運営協議会は、生徒や保護者には見えにくいですが、学校に対しては支援をいただいている。	学校からの情報発信は積極的に継続する。学校運営協議会について教職員がしっかりと理解する機会を持つ。学校評価の結果を踏まえた分析と改善のための重点項目を明示し、周知を図る。

学校関係者評価	
評価日	9月11日、18日、25日
評価者・組織	PTA運営委員会 学校評価部会 学校運営協議会
分析や意見	改善策・支援策
校区内での生徒の気にかかる行動は、生徒数が減っているのがあるが減少している。地域からの苦情もあまりない。	学校運営協議会として「あいさつキャンペーン」に協力するののも一つの方法だろう。
1年生でどの時間もこの字に机を並べているのは、互いに顔が見え、反応が見える。社会生活の中では、互いに見て、見られる関係の中で折り合いをつけていく必要がある。学力については、すぐには効果が見えないかもしれないが、期待している。	図書室の活用促進のために、次回のPTA運営委員会は図書室でやりましょう。
学校として取り組んでいることや様子がよくわかる。学校評価アンケートを取ったり、まとめたりのは大変だろう。先生たちも、昔習っていないこともする必要があるのですね。学校の教師は転勤があるが、地域住民はずっといる。また、PTAの世代と地域のベテランの世代が違った立場で学校にかかわることは良いことである。	学校の先生方と情報を共有していく。必要な場面があれば、地域としてできることを自然体とする。